

HIRANO TECSEED Co.,Ltd.

第85期 事業報告書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで



株式会社 ヒラノテクシード

証券コード | 6245 |

素材を創造させる“塗”と

私たちヒラノテクシードは1935年の創業以来、熱と風の技術を追求し、“塗る”技術を融合させ、時代の流れの中で進化する、素材を化学し、高品質並びに高付加価値の製品を生み出す設備を提供する『コーティング装置のトップ企業』として成長してまいりました。

薄型テレビや携帯電話、さらには太陽電池や燃料電池等さまざまな製造現場を支えるのが当社の技術です。

FPD用光学機能性フィルム

フラットパネルディスプレイには、さまざまな機能性フィルムが使われています。当社は近年大型薄型テレビで脚光を浴びている液晶並びにPDP用ディスプレイパネルの中核を占める偏光板フィルム、反射防止フィルム、光拡散フィルム、電磁波防止フィルム、保護フィルム等の“機能性フィルム”を生産する精密クリーンコータを製造しております。



ディスプレイの前面板に貼り、画面の表面反射・映り込みを抑え、反射光を低減する反射防止フィルム等

フレキシブル基板 (FPC)

携帯電話に代表されるモバイル端末は近年、薄型・軽量化が急速に進んできました。また、自動車関連でも耐熱性や屈曲性が厳しく要求されます。当社では、これらの分野に使用されるフレキシブル基板の原反となるポリイミドフィルムの成膜装置や、そのフィルムと銅箔などを張り合わせる機械を製造しております。



ポリイミドフィルムに銅箔を張り合わせてできたフレキシブル基板

先端技術

コア
テクノロジー

目立たないけれど、大切な仕事

“商品”は知っているけれど“どのような”道具で“どのように”つくられているかは、意外と知らないものです。当社では、創業以来培ってきた“熱”と“風”の技術【乾燥技術】に【コーティング技術】【ラミネーティング技術】【制御技術】を融合させ、お客様に高精度な機械を提供し、数多くの商品の製造において重要な部分を担い社会に貢献してまいりました。

そして今、私たちはエネルギー分野を中心に環境に貢献すべく取り組み、またさまざまな素材の製造プロセスに貢献すべく技術開発を行っております。

「エレクトロニクス」「高分子化学」「包装」「医療」「産業新素材」等、あらゆる分野において“塗る”“貼る”“乾燥する”“成膜する”という技術で当社の機械が関わっています。

目立たないけれど、大切な仕事です。

“乾”の技術

主力商品

子会社

塗 工 機

素材に多様な機能を持たせる

化学物質を素材に塗り、“薄い膜”を形成すると、素材だけでは不可能な多彩な機能を付加できます。

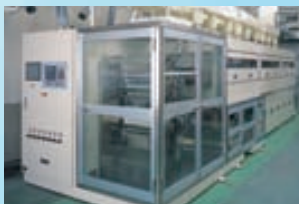
例えば、液晶やプラズマのFPD（フラットパネルディスプレイ）。フィルムに薄い膜をつくり、それを数種類貼り合わせるにより、鮮明な画像が生まれます。この“膜をつくり”“貼り合わせる”のが当社の「塗工機」の役割です。



薄膜成型装置

高品質のフィルムを生み出す

液晶・プラズマ・携帯電話などの電子回路のコア部品、フレキシブルプリント基板。この基板の元となる、極めて薄いポリイミドフィルムをつくるのが、当社の「薄膜成型装置」です。フィルムの厚さや品質の均一性が重要となるこの分野で、当社の装置は高い評価を得ています。



ヒラノ技研工業株式会社
株式会社ヒラノエンテック
ヒラノ光音株式会社



株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、第85期（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）の決算を終了いたしましたので、その概況につきましてご報告申し上げます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年6月

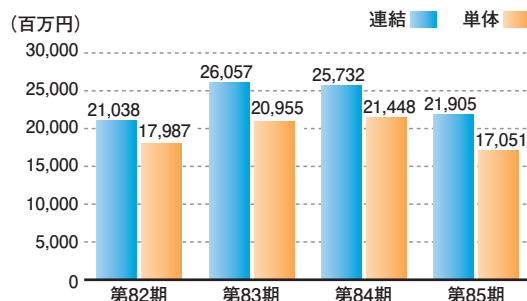
取締役社長

三浦 日出男

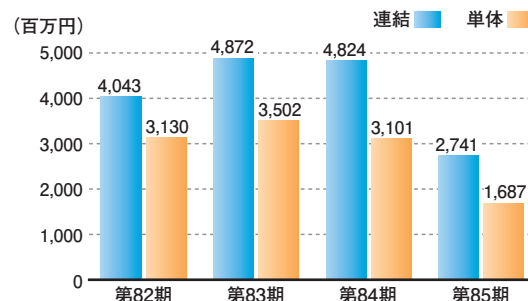
業績ハイライト

Financial Highlights

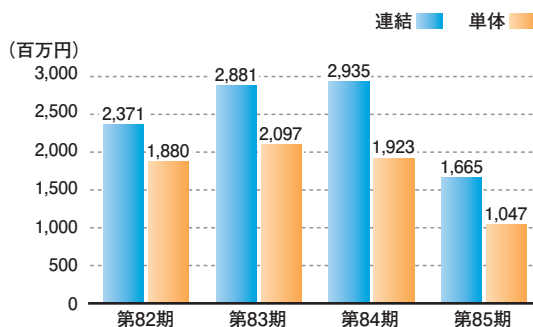
売上高



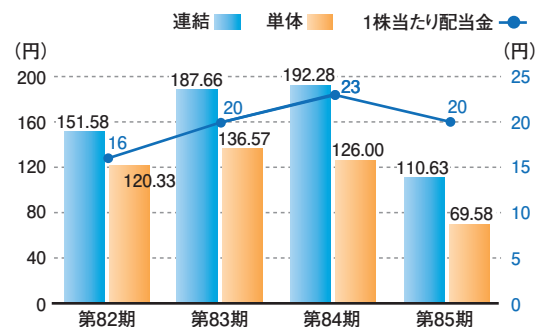
経常利益



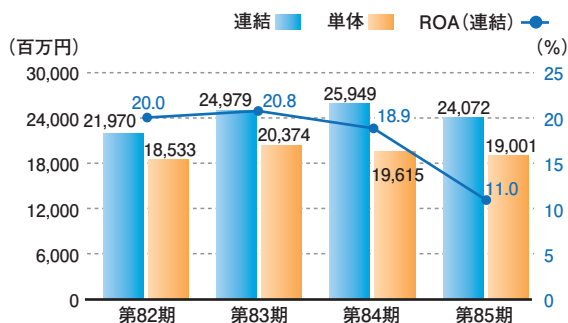
当期純利益



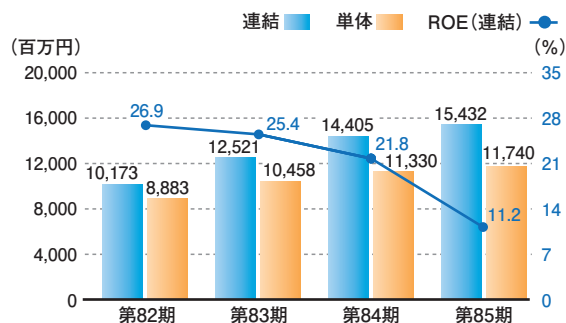
1株当たり当期純利益／1株当たり配当金



総資産／ROA



自己資本／ROE



事業の概況

Review of Operations

事業の経過及び成果

当期のわが国経済は、後半に入り金融危機等で世界経済が急速に減退した影響を受けて、輸出高や生産高又は国内における個人消費・企業の設備投資等が大幅に減少し悪化致しました。市場が混乱する中で、企業にも信用不安が広がり設備投資に対して一層の慎重さが見られる状況となりました。

このような状況のもと、当社グループは、環境エネルギー分野及び電気電子部材関連分野を中心に、高精度薄膜塗工装置を納入すべく注力致しました。しかし、外部環境の大幅な悪化の影響を受け納期の延長・設備計画の凍結など、厳しい状況で推移致しました。

その結果、売上高は21,905百万円（前期比14.9%減）となり、利益面では経常利益2,741百万円（前期比43.2%減）を計上し、当期純利益は1,665百万円（前期比43.3%減）となりました。

受注残高につきましては、厳しい受注環境のもと、11,293百万円（前期末比42.6%減）、うち国内は7,584百万円（前期末比51.3%減）、輸出は3,708百万円（前期末比9.3%減）となりました。

次期の見通し

今後の見通しにつきましては、世界的な金融危機が深刻さを増す中において、個人消費並びに企業の設備投資の回復は不透明な状況にあります。当社グループにおきましても生産設備投資需要に相当の落込みが懸念されます。

このような状況のもと、「お客様の満足を第一に品質の向上」を目指し、他にはない生産設備を提供すべく、新製品・新技術の開発に積極的に取り組み、生産面ではコストダウンを中心とした生産性の向上に邁進し、企業体質の強化を図ってまいります。

現段階での次期連結売上高は15,500百万円、連結経常利益は700百万円、連結当期純利益は420百万円を見込んでおります。

セグメントの状況

Segment Report

塗工機関連機器

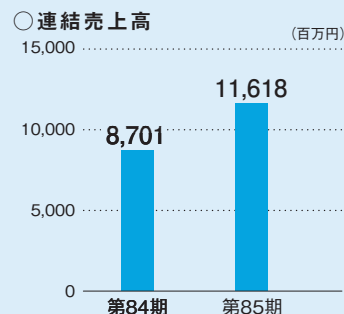
各種コーティング、ラミネーティング装置並びにこれらに付随する乾燥熱処理装置及びライン制御装置

当部門は、太陽電池用薄膜塗工装置、工業用粘着テープ製造装置関連及び液晶表示用機能フィルム製造装置関連を中心に低調ながらも推移し、売上高は11,618百万円（前期比33.5%増）、うち国内売上高7,723百万円（前期比37.8%増）、輸出売上高3,895百万円（前期比25.7%増）となりました。

受注残高につきましては、6,896百万円（前期末比34.2%減）、うち国内は4,723百万円（前期末比41.1%減）、輸出は2,172百万円（前期末比12.0%減）となりました。



塗工機



化工機関連機器

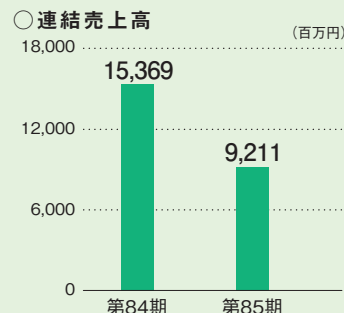
各種成膜装置、不織布・高機能繊維製造装置、フラットパネル塗布乾燥装置、真空蒸着装置並びにこれらに付随する乾燥・熱処理装置及びライン制御装置

当部門は、電気・電子部品向け成膜装置を主体に売上高は、9,211百万円（前期比40.1%減）、うち国内売上高7,972百万円（前期比6.8%減）、輸出売上高は1,238百万円（前期比81.8%減）となりました。

受注残高につきましては、4,239百万円（前期末比52.1%減）、うち国内は2,723百万円（前期末比63.0%減）、輸出は1,515百万円（前期末比1.9%増）となりました。



薄膜成型装置



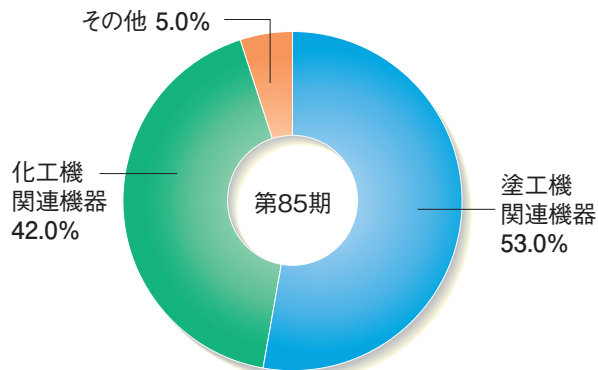
その他

染色整理機械装置、各種関連機器の部品製造
及び修理・改造等



セグメント別構成比

○連結売上高



2009年元気なモノ作り中小企業 300社に選定

中小企業庁が、規模は小さくてもモノ作りを通じ地域経済に貢献している企業、社会的課題に対応して新規分野を開拓している企業などを対象とした、「2009年元気なモノ作り中小企業300社」。

このたび当社が、その中で「日本のイノベーションを支えるモノ作り中小企業」部門（高度な技術を用いて革新的な製品を供給している企業、国民生活や産業活動に大きな影響を与えている中小企業を150社）に選定されました。

当社が、創業以来培ってきた「熱と風の技術」と「塗布とライン制御技術」をもとに、塗工方式・乾燥方式・ウェブの走行制御方式の大型化と高精度化に取り組み、環境、エネルギー、情報分野など、進化し続ける市場要求に対応するため、それぞれの製品形態に適合した超薄膜コーティング技術、精密乾燥・熱処理技術、高精度走行制御、精密部品加工技術を駆使し、各種要素技術やプロセス技術の開発を推進するとともに、開発した各要素技術を融合させることで次世代の「新規コーティング設備」を商品化し続けていることに加え、ヒラノグループが保有する技術を融合させることでフレキシブルなディスプレイや白色照明、太陽電池などに利用できる機能性フィルムを生み出すような技術開発にも取り組んでいることなどが評価され、今回の選定となりました。

連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第84期 (平成20年3月31日現在)	第85期 (平成21年3月31日現在)
資産の部	25,949	24,072
流動資産	21,861	20,107
現金及び預金	8,021	6,385
受取手形及び売掛金	8,230	7,878
有価証券	998	2,629
仕掛品	—	2,947
原材料	—	109
たな卸資産	4,325	—
その他	293	167
貸倒引当金	△ 8	△ 9
固定資産	4,087	3,965
有形固定資産	2,516	2,652
建物及び構築物	635	748
機械装置及び運搬具	650	635
土地	1,024	1,054
リース資産	—	4
その他	205	209
無形固定資産	240	198
投資その他の資産	1,330	1,114
投資有価証券	1,138	714
その他	192	410
貸倒引当金	△ 0	△ 11
資産合計	25,949	24,072
負債の部	11,543	8,640
流動負債	10,151	7,224
支払手形及び買掛金	6,467	4,084
短期借入金	480	460
未払法人税等	1,089	546
前受金	844	1,396
賞与引当金	165	167
その他	1,103	569
固定負債	1,392	1,416
長期借入金	441	499
退職給付引当金	831	777
役員退職慰労引当金	113	135
その他	7	4
純資産の部	14,405	15,432
株主資本	13,997	15,312
資本金	1,847	1,847
資本剰余金	1,339	1,339
利益剰余金	11,205	12,523
自己株式	△ 395	△ 398
評価・換算差額等	408	119
その他有価証券評価差額金	408	119
負債純資産合計	25,949	24,072

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第84期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	第85期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
売上高	25,732	21,905
売上原価	19,058	17,509
売上総利益	6,673	4,396
販売費及び一般管理費	1,876	1,709
営業利益	4,797	2,686
営業外収益	63	82
受取利息	5	19
受取配当金	17	20
その他	40	43
営業外費用	36	27
支払利息	25	17
その他	11	9
経常利益	4,824	2,741
特別利益	46	4
貸倒引当金戻入益	3	—
固定資産売却益	—	4
厚生年金基金特別掛金返戻金	43	—
特別損失	1	8
投資有価証券評価損	1	—
固定資産売却損	—	0
固定資産除却損	—	8
税金等調整前当期純利益	4,870	2,737
法人税・住民税及び事業税	1,892	1,035
法人税等調整額	41	36
当期純利益	2,935	1,665

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	第84期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	第85期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,341	907
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 430	△ 601
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 352	△ 311
現金及び現金同等物の増加額 (△は減少)	1,558	△ 5
現金及び現金同等物の期首残高	6,980	8,539
現金及び現金同等物の期末残高	8,539	8,533

連結株主資本等変動計算書

第85期 (平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					評価・ 換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	
平成20年3月31日残高	1,847	1,339	11,205	△ 395	13,997	408	14,405
連結会計年度中の変動額							
剰余金の配当			△ 346		△ 346	—	△ 346
当期純利益			1,665		1,665	—	1,665
自己株式の取得				△ 4	△ 4	—	△ 4
自己株式の処分		△ 0	△ 0	1	0	—	0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額 (純額)					—	△ 288	△ 288
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 0	1,318	△ 2	1,315	△ 288	1,027
平成21年3月31日残高	1,847	1,339	12,523	△ 398	15,312	119	15,432

連結財務諸表のポイント

連結貸借対照表関係

当連結会計年度末の総資産は前連結会計年度末に比べ1,876百万円減少し、24,072百万円となりました。以下において主な科目別に説明いたします。

(資産)

流動資産は前期末に比べ1,753百万円減少し20,107百万円となりました。その主な要因は受取手形及び売掛金が351百万円減少したこと並びに受注量の減少により仕掛品が1,295百万円減少したことによります。

また、固定資産は前期末に比べ122百万円減少し3,965百万円となりました。その主な要因は、有形固定資産が135百万円、繰延税金資産が184百万円それぞれ増加したものの、無形固定資産が41百万円、有価証券の期末時価の下落等の理由により投資有価証券が423百万円それぞれ減少したことによります。

(負債)

流動負債は前期末に比べ2,926百万円減少し7,224百万円となりました。その主な要因は支払手形及び買掛金が2,383百万円、経費等の未払金が443百万円、それぞれ減少したこと及び法人税等の支払により未払法人税等542百万円減少したことによります。

固定負債は前期末に比べ23百万円増加し1,416百万円となりました。その主な要因は、長期運転資金の安定確保のため、資金調達を実施し、長期借入金が57百万円及び役員退職慰労引当金が22百万円増加したものの、退職給付引当金が54百万円減少したことによります。

(純資産)

純資産は前期末に比べ1,027百万円増加し、15,432百万円となりました。その主な要因は、当期純利益が1,665百万円計上されたことによります。

連結キャッシュ・フロー計算書関係

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、期首残高よりも5百万円減少し、8,533百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

【営業活動によるキャッシュ・フロー】

営業活動によって得られたキャッシュ・フローは前期比1,433百万円減少し907百万円となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益が2,737百万円になったこと及び、売上債権が893百万円、たな卸資産が1,245百万円それぞれ減少した一方、仕入債務が2,384百万円減少したことによります。

【投資活動によるキャッシュ・フロー】

投資活動によって使用されたキャッシュ・フローは前期比171百万円増加し601百万円となりました。これは主に生産性及び付加価値向上のため設備を導入したことにより、500百万円の有形固定資産取得による支出を行ったこと、また、52百万円の投資有価証券の取得による支出によります。

【財務活動によるキャッシュ・フロー】

財務活動によって使用されたキャッシュ・フローは前期比41百万円減少し、311百万円となりました。これは主に、長期借入金の約定弁済を481百万円行う一方、長期運転資金確保のため長期借入金500百万円実施したこと、また、配当金の支払を345百万円行ったことによるものであります。

財務諸表

Non-consolidated Financial Statements

貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第84期 (平成20年3月31日現在)	第85期 (平成21年3月31日現在)
資産の部	19,615	19,001
流動資産	15,891	15,442
現金及び預金	4,271	3,209
受取手形及び売掛金	7,388	7,648
たな卸資産	2,910	2,214
その他	1,324	2,377
貸倒引当金	△ 2	△ 8
固定資産	3,723	3,558
有形固定資産	2,069	2,180
建物	471	568
機械装置	467	470
土地	902	932
その他	227	208
無形固定資産	229	181
投資その他の資産	1,424	1,195
投資有価証券	1,136	713
その他	288	493
貸倒引当金	—	△ 11
資産合計	19,615	19,001
負債の部	8,284	7,260
流動負債	7,079	6,049
支払手形及び買掛金	4,590	3,416
短期借入金	444	432
未払金	653	255
未払法人税等	539	246
前受金	411	1,343
賞与引当金	128	127
その他	311	228
固定負債	1,204	1,211
長期借入金	400	437
退職給付引当金	713	675
役員退職慰労引当金	84	94
その他	7	4
純資産の部	11,330	11,740
株主資本	10,923	11,620
資本金	1,847	1,847
資本剰余金	1,339	1,339
利益剰余金	8,131	8,831
自己株式	△ 395	△ 398
評価・換算差額等	407	119
その他有価証券評価差額金	407	119
負債純資産合計	19,615	19,001

損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第84期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	第85期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
売上高	21,448	17,051
売上原価	16,828	14,056
売上総利益	4,619	2,995
販売費及び一般管理費	1,571	1,380
営業利益	3,048	1,614
営業外収益	83	96
受取利息・配当金	37	52
その他	45	44
営業外費用	30	24
支払利息	23	15
その他	6	8
経常利益	3,101	1,687
特別利益	45	4
貸倒引当金戻入益	1	—
固定資産売却益	—	4
厚生年金基金特別掛金返戻金	43	—
特別損失	1	0
投資有価証券評価損	1	—
その他	—	0
税引前当期純利益	3,145	1,691
法人税・住民税及び事業税	1,174	616
法人税等調整額	47	27
当期純利益	1,923	1,047

会社の概況

Company Information

(平成21年3月31日現在)

社名	株式会社 ヒラノテクシード
英文社名	HIRANO TECSEED Co.,Ltd.
創業	昭和10年6月1日
設立	昭和24年7月25日
資本金	1,847,821,888円
従業員数	236名
事業所 本社	〒636-0051 奈良県北葛城郡河合町大字川合101番地の1 電話 (0745) 57-0681
東京支店	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-8-16 (千城ビル9F) 電話 (03) 3242-5441
インターネット ホームページ	http://www.hirano-tec.co.jp/

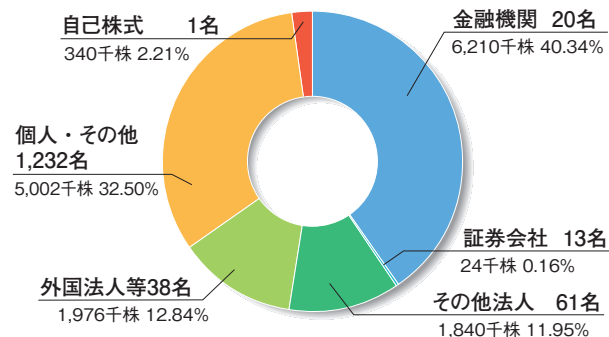
株式の状況

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式総数	15,394,379株
株主数	1,365名
大株主	

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
	千株	%
明治安田生命保険相互会社	1,450	9.41
ヒラノ会	1,134	7.36
伊藤忠商事株式会社	1,000	6.49
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	804	5.22
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社 (信託口)	776	5.04
株式会社三菱東京UFJ銀行	737	4.78
株式会社りそな銀行	731	4.74
モルガンスタンレーアンドカンパニー インターナショナルビーエルシー	513	3.33
ザチースマンハッタンバンク エヌエイロンドンエスエルオムニバス アカウント	471	3.05

(注) 出資比率は自己株式(340,185株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



役員

取締役社長 (代表取締役)	三浦日出男
常務取締役	馬場英樹
常務取締役	松葉茂美
取締役	桑原茂
取締役	入江伸晶
取締役	定安一男
取締役	松本剛
常勤監査役	高田賢
監査役	長谷川義起
監査役	高谷和光

(注) 監査役長谷川義起氏並びに高谷和光氏は、社外監査役であります。

子会社

ヒラノ技研工業株式会社 (産業用機械器具製造)
株式会社ヒラノエンテック (繊維機械等部品製造)
ヒラノ光音株式会社 (理化学機器製造)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問合せ先)	〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 (通話料無料) : 0120-094-777
上場証券取引所	大阪証券取引所 市場第二部
証券コード	6245
公告掲載方法	大阪市において発行する日本経済新聞

※株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。

電話 (通話料無料) :

0120-244-479 (本店証券代行部)

0120-684-479 (大阪証券代行部)

インターネットホームページ : <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

ヒラノテクシード ホームページ

<http://www.hirano-tec.co.jp/>

ホームページで当社の事業活動、商品の案内、投資家情報などに関する詳しい情報をご覧ください。ただけます。ぜひご活用ください。



この事業報告書は、環境に配慮し、再生紙と大豆油インキを使用しております。